

令和5年度第2回

隠岐の島町総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和5年10月13日(金) 16時00分～16時50分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 1階 町民ホール101～103会議室

3. 出席者 町長 池田 高世偉

教育委員会 教育長 野津 浩一

教育委員会 委員 常角 敏

教育委員会 委員 山下 豊範

教育委員会 委員 谷田 一子

教育委員会 委員 藤野 雅栄

【事務局】

総務学校教育課長 金井和昭、社会教育課長 中村恒一

総務学校教育課長補佐 藤田志生

4. 協議事項 小中学校規模適正化について

6. 傍聴人数 4名

7. 会議の経過 別紙のとおり

8. 会議録作成者 総務学校教育課 総務係 藤田志生

9. 会議録署名者 署名日 令和 5年 10月 27日

町長 池田高世偉

教育委員 山下豊範

別 紙（議題の経過）

○開 会

事務局職員が出席者の確認をした後、町長は開会を宣言した。

（池田町長） 先月30日に東京都両国の国技館で行われた「隠岐の海関引退・君ヶ浜親方襲名披露大相撲」について報告しておきたい。隠岐からもチャーター便を含めて200名近くの方が会場である国技館に駆けつけ、非常に感動的な行事が行われた。あらためて元隠岐の海関の功績を実感した。

相撲の聖地である国技館で、隠岐古典相撲が披露され、塩まきのシーンでは会場中が沸き、終了後にはマスメディアやインターネット上で多くの評価をいただいた。古典相撲に限ったことではないが、伝統文化を後世に伝えていく取組の重要性を感じた。

○会議録署名者の指名

町長は、山下委員を議事録署名者に指名した。

○協議事項

（1）小中学校規模適正化について

①北小学校の統廃合について

②保護者・地域への説明について

事務局より次のとおり説明を行った。

- ・本年8月4日に開催した本年度第1回隠岐の島町総合教育会議で、保護者会が実施するアンケートの結果を参考にしながら、保護者や地域の代表の方との議論の結果を踏まえて北小学校の方向性を決定することを議決いただいた。
- ・その後、保護者会の代表の方からアンケートの集計結果の提供を受けた。結果としては、かなりの保護者の方が統合に反対していることが分かった。
- ・9月21日には、保護者・地域の代表の方との合同会議を開催し、北小学校を令和7年4月に中条小学校に統合する方針案を取り下げたことを報告した。
- ・合同会議の意見交換では、ぜひとも統合するべきであるとの意見はなかった。保護者・地域の方から方針案を取り下げたことへの対応、北小学校の取組と地域、教育委員会への要望など様々な意見を伺った。
- ・教育委員会への要望の中には、方針案の取り下げについての、地域への説明会の開催要望もあり、なるべく早期に開催する必要があると考えている。

池田町長が、事務局から説明のあった「①北小学校の統廃合について」「②保護者・地域への説明について」確認する必要のある内容がないか委員に尋ねたが、発言はなかった。

（池田町長） 質問がないようなので、私の考えを述べる。北小学校の統廃合については、現在の小中学校規模適正化計画期間中である令和7年度末までは、計画に基づき統廃合は行わず、魅力ある学校づくりを継続して進めていく。さらには、教育委員会から統廃合についての提案は次期計画策定までは行わないこととしたい。

以上が、現段階での私の考え方であり、意見がある委員はよろしくお願ひしたい。

(常角委員) 町長の考えに同意する。北小学校のような極小規模校であっても、高い教育効果を実現することは可能だと考える。北小学校は教職員の皆様が頑張っているとの評価を聞いており、今後も期待したい。特に知徳体のバランスの取れた教育効果は間違いなく見込める。魅力ある学校づくりのためには「ふるさと教育の充実」が非常に大切であるため、教育委員会は地域とともに「ふるさと教育の講師リスト」づくりを進めていく必要がある。

合同会議では、北小学校ばかりが頑張っているとの意見があったとも聞いているが、学校を中心に地域や保護者が応援団となり、開かれた学校づくりに参加していく必要がある。

(谷田委員) 町長の考えに異論はない。現在の北小学校で地域と共に魅力的な教育活動を展開していることは承知している。20年近く前に中村小学校に教員として勤めていた頃にも自然環境や文化など地域の教育資源を最大限に活用した教育がされ、今なお継続していることを見ると地域の力を感じる。次期計画が策定されるまでは、地域の力を活用しながら魅力ある教育を推進していくものと期待する。

ただし、今回のことは問題を先送りしただけの危惧はある。この2年間で欠学年が出たことは大きな問題と捉えるべきであり、心と体をバランス良く育てていき、生きる力を養うためには他学年との交流も重要であり、そのことが課題になってくる。しかし、小規模校だから出来る教育の魅力もあるので学校と地域、保護者が知恵を出し合い、魅力ある学校づくりを進めていく必要があると考える。

(藤野委員) 町長の考えには納得は出来るが、統廃合という方針を示してしまったことに対する反省は持っておかないといけないと考える。

計画期間中は統廃合を行わないということが、問題の先送りになってはいけない。方針案を出した理由は、入学児童がいなく、児童数が減少していくことの保護者の不安が想像以上にあると判断したためであり、教育の在り方を学校と地域、保護者で議論していかなければ、何年後かに困惑することが危惧される。教育委員会は、子どもたちの教育を地域のなかでどう支えていくのか、常に地域と議論し合っていくことが大事であることを感じた。

(山下委員) 委員皆さんの意見に賛同する。今回の統合案について、教育委員も悩み続けた期間であった。当然、該当の中地区・布施地区の地域や保護者の方も不安であったと思う。

今回の統合案は中地区・布施地区だけでなく、常に緊張感や危機感を持って、町民全体で考えていく必要性を問いかける良い問題提起に結果的にはなったとも考えられる。

今日まで、これまで知らなかった地域の取組や学校との関わり、学校に対する思いを様々に聞くことができた。今回のことで学校と地区との連携が強化されているように思い、さらに学校と地域との絆が深まり、今後どのように北小学校の教育が充実されていくのか期待し、見守っていきたい。

(池田町長) 教育委員からの意見として問題の単なる先送りとならないように、また保護者の不安解消を、ということ承った。小規模校ではあるが、引き続き魅力ある学校づくりを進めていくこととし、私の提案が了承されたものと解してよろしいか。

(教育委員) 全員同意

(池田町長) 2点目の「保護者・地域への説明」についてだが、私の考えを述べる。先程同意いただいた内容を説明する機会として、北小学校校区内に住所を置く

児童・未就学児の保護者に対して1回、中地区で1回、布施地区で1回の計3回実施するべきと考えており、意見がある委員はよろしくお願ひしたい。
(谷田委員) 不安の解消のために、町は様々な悩みを聞ける機会となることを、保護者は思いを言える機会となることを願う。

小学校は教育機関ではあるが、地域の拠点であり、心の故郷のようなものでもある。学校の行く末は地域の住民や出身者にとって非常に重要なことであり、今後のことについて十分な時間と議論の場が出来れば良いと考える。

本当はすべての保護者の方の思いが吸い上げられれば一番良いと考える。困難であることは承知しているが、これまでのアンケートを見返しても、非常に熱く強い思いを持った保護者がいるものと感じる一方で、アンケートに思いを書けなかった方がいることも聞いている。なるべくすべての保護者の方の思いを吸い上げられるために、アンケートの設問内容の工夫や、聞き取りなどアンケート以外の方法の検討など工夫された仕組みを検討する必要があると考える。さらに、情報が正確かつ迅速に発信されることで不安が少しでも和らぐようにも感じている。

(池田町長) せっかくの説明会であるので、しっかりと議論していき、保護者の不安を聞いていきたいと考えている。

(常角委員) 合同会議では、教育環境を選択するのは保護者であるような意見があったように聞いているが、「教育環境を作っていく一端を担っていくのは保護者である」との認識をするべきと考えている。開かれた学校づくりのために、保護者と地域、教育委員会が一緒になり議論し取組んでいく必要があると考える。

(山下委員) 谷田委員の言われた保護者の方の思いの吸い上げに係る課題について、私も心配している。なるべく保護者、地域の方の個々の意見を出しやすい環境を提供するべきではないかと考えている。例えば、入学前の親楽プログラムの際に話をするとか、多くの意見を吸い上げるための工夫をする必要があるように思う。

(池田町長) 意見が言える環境づくりについてのご指摘は努めていきたいと考えているが、概ね私の提案が了承されたものと解してよろしいか。

(教育委員) 全員同意

③小中学校規模適正化計画について

事務局より次のとおり説明を行った。

- ・現在の小中学校規模適正化計画は令和8年3月までの計画となっている。
- ・次期の計画は、令和6年度中に検討委員会を設置し、諮問することとしたい。
- ・諮問に対する答申を受け、速やかに次期の小中学校規模適正化計画を策定していきたい。
- ・現在と次期の計画に切れ目がないように策定することを目指して進めていきたい。
- ・今年度で検討委員会の構成や諮問内容について協議していきたい。

池田町長が、事務局から説明のあった「③小中学校規模適正化計画について」質問や意見がないか委員に尋ねた。

(山下委員) 検討委員会の人選はどのように考えているか。

(金井課長) 人選も含めて今後検討する内容になる。次期の計画も本町全体の計画となるので、幅広い意見を伺うための人選を行う必要があると思っている。

(藤野委員) これまで、本町の福祉計画等の諮問機関の委員として携わってきたが、最

終的な答申に対するパブリックコメントを募集しても、意見が少ないことが多かった。町民の方にとって、答申を見て、意見を言うことは難しいと考えられるため、議論の経過ごとに情報発信するなど広報の在り方を検討するべきではないかと考える。

(野津教育長) まずは検討委員会に諮問し、答申を受けたい。その答申をもって、町が計画を策定することとなるが、計画策定の過程で町民の皆さんの意見を聞いていく必要があるものと考えている。

(常角委員) 先般、島根県内の人口について、本町と飯南町だけが減少していないとの報道があった。本町には多くのＩターン者があり、ゲストハウスをするなど活躍している。一方で、今後も郷土を愛する子ども、将来は本町で住むことを志す子どもを育てるための「ふるさと教育」を推進していくことが重要であると考えている。Ｉターン者誘致の施策、人口減少に歯止めをかけるための施策などの町の施策が重要であり、そのことが小中学校規模適正化計画の下地にあるべきと考える。

教育委員会は、ふるさと教育を充実させていくことを推進する必要がある、そのために「ふるさと教育の講師リスト」を作成する必要がある。ふるさと学習が始まって以来、確実に将来は本町で暮らしたいと思いを持つ子どもたちが増えており、さらに充実させていくことが重要と考える。

(谷田委員) 人口減少をある程度は受け入れつつも、どれだけ本町に人を呼び込めるか、定住させられるかが大切であり、そのために教育が大きく関わってくると思っている。子どもたちが少なくなる中、次期の計画には、町全体の問題として小学校・中学校の在り方が明記されることを望む。西ノ島町・知夫村は小中一貫校、海士町はこれ以上学校は減らさないとの決意で臨むなど隠岐島内でも各町村の学校教育を守る手段が様々であり、次期の計画策定の過程では、それらの情報も入手しながら参考にして取掛ってほしい。

また、島根県内全体として教員不足が深刻化している。松江市を含めて本土の学校でも教員確保が困難になりつつあるとの情報も入った。以前から本土の講師の方に来てもらっているが、今後はそれも困難になってくることが予想される。そのことも学校数・学級数に影響することであると考えられ、大きな問題になってくると考えている。そのことも含めて、計画策定の際には情報交換を行ってほしい。

(池田町長) 委員の言われるとおり、次期の計画策定の過程では、町民の皆様にも知ってもらい、意見を聞きながら進めていかなければならないと思っている。

また、本町に限らず多くの自治体で少子化や人口減少が深刻化している。そのような状況のなかで、自治体と学校教育をどのようにして守っていくかが重要であり、そのことを踏まえた計画となるべきものと考えている。

次期の計画は、令和６年度中に検討委員会を設置し、諮問することとしたいがよろしいか。

(教育委員) 全員同意

その他、事務局より次のとおり説明を行った。

- ・保護者、地域への説明は今月中に行いたい。
- ・保護者との協議の際には、しっかりと不安を聞き、可能な限りで対応していきたい。

○閉会

町長は閉会を宣言した。